

Contents 「主な内容」

- 人権センター公開講座中止のお知らせ …… P 1
- 知ってほしい先天性障がい～自閉症～ …… P 2

人権センター公開講座

「寛容さと不寛容 どちらで生きていきたいですか」



講師 かん べ かね ぶみ
神戸 金史さん

(RKB毎日放送報道局 担当局長)

プロフィール

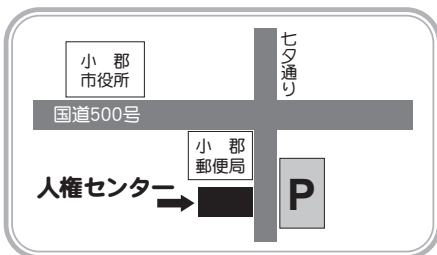
- 1991年に毎日新聞社に入社。2004年、自閉症児の父親の立場からコラム「記者の目」や「うちの子 自閉症児とその家族」を連載。
- 2005年にRKBに転職。2016年の津久井やまゆり園事件（相模原障がい者施設殺傷事件）の被告と接見を重ね、ドキュメンタリーを制作する。

私は記者として接見を続けてきましたが、障害を持つ子の父でもあります。植松死刑囚は、「息子さんは、幼いうちに安楽死させるべきでした」と言い放ちました。接見を重ねる中で、平凡な青年を凶行に走らせたのは、「役に立たない人間に、生きる資格はない」という、乱暴で単純な“不寛容”の意識なのだ、と感じました。「自己責任」「生産性」「優生思想」…。社会は不寛容な言葉に溢れています。なぜそんな社会になったのか、誰もが安心して生きることができる社会を実現するには何が必要なのか、一緒に考えてみませんか。

日時 ~~2月19日(土) 13:30～15:00~~

会場 ~~小郡市人権教育啓発センター~~

市広報1月15日号にお知らせを掲載した上記講座は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、中止します。誠に申し訳ありません。



【問い合わせ】 小郡市人権教育啓発センター
TEL/FAX 0942-80-1080
Eメール dotai@city.ogori.lg.jp

知ってほしい先天性障がい ～自閉症～

2月19日の公開講座の講師・神戸金史さんの長男・金佑^{かねすけ}さんは、自閉症という障がいがあります。自閉症は、さまざまな特性がありますが、決して保護者の育て方の問題ではなく、先天性の発達障がいのひとつです。近年、保育現場や幼児教育・小・中学校現場では自閉症を含む発達障がいへの理解が広がってきました。しかし、外見では分かりにくい障がいであるため、日常生活の中では、周りからの言葉や視線に苦しんでいる当事者や家族の方たちがいます。

「2004年4月21日 毎日新聞 記者の目『自閉症児の父として』神戸金史(社会部)」より

自閉症は、脳の中樞神経の機能障害に由来する。行動や興味が限られていて、コミュニケーションに問題がある。障害の度合いは個人差が大きく、言葉を持たない人から、オウム返しのように相手と同じ言葉を繰り返す人、知的障害を伴わず大学に進む人までいる。

自閉症は、視覚、触覚などから得る無数の情報を整理できないように思える。長男は2歳のころ、人の声と自動車の騒音の区別もできないようだった。私がいくら呼んでも声だけでは分からない。一直線に走って公園を飛び出し、道路を横切ろうとする。怒っても意思が通じない。手を出せばパニックになる。泣き叫ぶ長男を引っ張って買い物に行く妻は、周囲の「虐待してんじゃないの?」という視線に何度も涙した。

長男とどうしたら意思疎通ができるか。妻は声をかける時、同じ目の高さで肩をたたき、身ぶり手ぶりを加えた。指をさすことの意味を伝えるのに1年かかった。妻は私の写真を見せ、いつも親指を立ててみせた。4歳になった長男が、私に親指を立てたときは忘れられない。私も親指を立てて言った。「そうだ、おれがお父さんだ。」初めて意思が通じた瞬間だった。

妻は車や自宅、病院などの写真や、地下鉄の駅を示す路線図を書いたカードを何百枚も作り、行動の度に見せてきた。今、5歳の長男は、食べたいものや行きたい場所のカードを持ってくる。意思疎通の方法を持ってから、急に成長してきた。いつかはカードに頼らず自己表現できるように。妻と私の遠い目標だ。

この記事からも分かるように、障がいのある子も、ゆっくりと成長しています。金佑さんは、重度の自閉症ですが、家族が献身的に療育に取り組んだことや、スマホなどIT機器を使った意思疎通の方法ができたことで、家族とのコミュニケーションは一定程度取れるようになりました。現在は20代になり、LINEで会話することもでき、福祉サービスの事業所に楽しく通っているそうです。

障がいのある人もない人も共に学び、働き、 共に生きることができる社会をめざして

私たちは、自閉症を含む発達障がいについて、理解することに加え、どのように考え行動していったらよいのか。長年、障がいのある子どもと家族の支援や理解を進める活動を続けている「NPO法人しょうがい者と共に生きる『みんなのかえるランド』代表・野田利郎さん」にお話を伺いました。

家族の一番の願いは「きょうだいや保育園等の仲間たちと共に地域の学校に行くこと」。だから、いろいろな特徴をもった子どもだけれど、あるがままに地域で生きることを応援したいですね。以前に比べると早い時期から特別支援教育が提供されるようになってきたけれど、私は小さい時はまずは一緒に学んでいくことが大事ではないかと思っています。分けてしまうことで、気づけば地域で暮らすことがなくなってしまうのではないかと。そのことで地域でのつながりがなくなり、差別が生まれてしまうのではないかと。思います。

詳しいお話を市HP [ホーム▶学ぶ・スポーツ・人権▶人権センター▶人権センター通信]に掲載しています。

自閉症を含む発達障がいのある人や家族に対して「自分とはちがう」と線を引いたり、「大変そうだな」と他人ごとでいるような社会ではなく、「何に困っているのかな」「私ができるサポートは何だろうか」と考え、共に生きていける社会をつくっていかうとすることが大切なのではないでしょうか。